

[dōk]

D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX 059-229-0967

N° 73 août 2005 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

新会長に豊田長康三重大学長を選出 2005年度総会

設立20周年に向けての活動へ

三重日仏協会2005年度総会は、7月10日津市のプラザ洞津で開催され、理事会提案の各議案を承認しました。今回は役員の変更の年にあたり、退任された矢谷前会長に代わって三重大学学長の豊田長康氏（55歳、産科婦人科学）を選出しました。また新しく理事として三重大学人文学部助教授のティエリー・グットマン Thierry GUTHMANN氏を選びました。宇京頼三氏は退任されました。豊田会長は就任の挨拶のなかで「フランスには学生時代友人たちとレンタカーで回ったのが最初で、その後学会や講演などで何度か行ったことがあり親しみを感じている。ワインの味についても向こうでいろいろ比べながら教えていただく機会があり、その深さに驚いたものだ。」と語り、今後三重大学とフランスの大学との交流にもさらに力を注がなければならないと抱負を述べました。



就任のあいさつする豊田会長

1987年に創立された三重日仏協会は、2年後に20周年を迎えるわけで、それにふさわしい活動が要求されるものと事務局では気持ちを新たにしております。なお、総会に欠席された会員には議案書をお送りします。

野島正興氏が記念講演「バロン薩摩の夢を追う」

私財800億円を日仏交流に費やした日本人の破天荒の人生

総会の記念講演は、やむをえない事情で講師の予定を変更し、元NHKアナウンサーで現在NHKりんくう文化センター長の野島正興氏にお願いしました。野島さんはフランス通で各地を転勤するたびにそこで日仏協会の設立に尽力してこられ、現在奈良日仏協会の理事もつとめておられます。当日は、かつて徳島放送局在任中、ご自身で制作にかかわり、ナレーションも担当したテレビの特集番組「バロン薩摩の夢を追う」のVTRを鑑賞したあと、大正末期から昭和にかけてパリの社交界で大活躍した日本人・薩摩治郎八の桁外れな人物像について話されました。



薩摩治郎八がパリの大学都市に建設寄贈した日本館。通称「薩摩館」。

VTRと講演で彼の興味深いかずかずのエピソードが紹介されましたが、そのなかでとくに聴衆を驚かせたものをいくつかあげますと・・・東京・神田の豪商の三代目である治郎八が祖父から受け継いだ今の貨幣価値で800億円とも言われる財産をパリでの「文化交流」や「芸術家の育成」の活動に使い果たしたのは実は父との合意の上であったということ。「すみれの花」にたとえられた美人の千代子夫人と純銀製の車を乗り回し、自動車エレガンスコンクールでグランプリを獲得したこと。彼の遺品のなかからジャンヌという女性からの手紙（恋文とみられる）が93通も見つかったが、このジャンヌこそあの女流画家マリー・ローランサンの美人モデルであり、彼女を通して治郎八はパリの優れた芸術家たちと親交を広げていったのではないかとということ。などなど。

さらに遺品のなかに、フランスの作曲家モーリス・ドラージュが親友薩摩のために作曲してプレゼントした楽譜が見つかった。詩は芭蕉の「古池や蛙とびこむ水の音」。三重県の上野あたりでこれを演奏するような機会がないものかと野島氏は語っていた。

恒例の「パリ祭」パーティー

在県のフランス人たち招いて

講演会のあと、4日早い「パリ祭」パーティーが開かれました。まずリヨン大学関係の3人の留学生や最近四日市市に住むようになった男性2人ら、招待された在県のフランス人を紹介して乾杯、楽しい交流の場となりました。また今回は野島氏の講演を聞くために初めて日仏の会合に参加した方たち数名もパーティーに参加されました。パーティーでは、16の枱にフランスの都市の名前を書き込んで競うビンゴゲームやクイズ、福引などで楽しい時間を過ごしました。



ゲストたちをステージに「乾杯」

「パリ祭」余談

フランス人の名前（プレノン）と聖人たち ヤコブがジャックで、ヨハネがジャンとは！

9月に私たちがフランスからピレネー山脈を越えて訪れようとしているのはスペインのサンチアゴ・デ・コンポステーラ。中世のころからヨーロッパ・カトリック信者の大切な巡礼の聖地である。サンチャゴと聞くと南米チリの首都を思い出すくらいでなじみが薄いですが、よく聞けばスペインのイアゴという名は、フランスへ行くとジャックなのである。つまりサンチアゴはサンジャック。昔からこの聖地巡礼には帆立貝の貝殻がお守りとされ、街道筋には貝のマークがあふれているそうだが、フランス料理によく供される帆立貝がコキユ・サンジャックと呼ばれるわけがうなずけてくる。では日本ではこの聖人のことをなんと呼んでいるか。それはヤコブである。何語に由来するのだろうか。身近では津の市役所の向かいにある古い教会と幼稚園、市民から「ヤコブ」と呼ばれ親しまれているが、これがパリ左岸のサンジャック通りやスペインのサンティヤゴ大聖堂と同じ聖人であることに驚かされる。待てよ、以前パリで泊まった宿はジャコブ通り44番地だった。ややこしい！

こんな意外性をみんなで楽しんでどうかと思い、「パリ祭」の余興のクイズに問題を作ってみた。マタイ、ルカ、マルコ、ヨハネといえば誰でも知っている新約聖書の使徒たちだが、これをフランス式にはどう呼ぶか、案外知られていないのではないかという趣旨である。答えはなんともありふれた名前、マチュー、リュック、マルク、そしてジャンである。とするとあのJean-François DAMÊMEさんは実はヨハネなんだ。ヨハネ・フランシスコ……。はたせるかなクイズの正解者は少なかった。また参加していたフランスの若者たちは聖書の常識には通じていても逆にマタイなどという日本の呼び方を知らないので、残念ながら問題の意図を理解してもらえなかったようだ。

（井土記）

8/1～
8/26

関宿を描く 亀井カノン新作展

1997年、60歳でひとりパリに渡り4年間美術の修業にいそしんだ、パリのハガキ画でおなじみ亀井カノンさん（三重日仏協会会員）の新作展です。ここ数年追求している関宿の風景、町並み、路傍の花や石などの水彩、パステル画など計11点を展示。今回はこれまでのハガキサイズから離れ、4号や6号の画面に自由に筆を伸ばしています。

場所 亀山市関町木崎588 百五銀行関支店ロビー（0595-96-1511）

開催日は上記の期間ですが、銀行開店時に限られます。

10/5
(予定)

カナダ・ケベック（フランス語圏）の家庭料理講習会

この4月に来日し、現在河芸町在住のカナダ人女性インテリアデザイナー、ドミニク・ドゥ・ブロワ Dominique de BLOISさんの指導により、カナダ・ケベック地方の家庭料理作りを実習します。アメリカの隣国カナダでも東海岸のケベック地方はフランス語圏でフランスの影響の強いところ。どんな食文化があるのか、興味もたれます。料理作りと試食、そして講師を囲んでの語り合いを楽しみましょう。

日時 10月5日（水）10時～14時（予定）

場所 津市白塚市民センター

費用 2000円程度の予定

問い合わせ、申し込みは 平井さん 059-268-3072

滝澤さん 059-225-2517

なお、会場は1ヶ月前の申し込みのため、あくまで「予定」です。

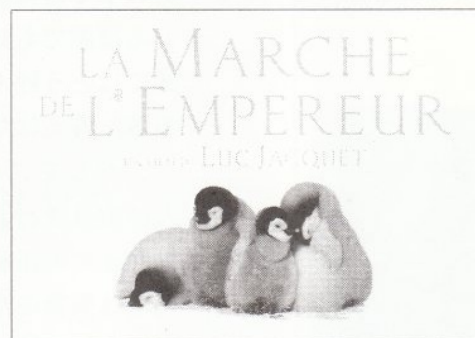
CINEMA

この秋上映

フランス映画の話題作（津大門シネマ）

◇皇帝ペンギン La Marche de l'Empereur

2005年作品 監督：リュック・ジャケ ロマーヌ・ポーランジェらがナレーションを担当。フランスで記録的な大ヒットとなった「氷に囲まれた南極の、あたたかな愛の物語」。10月1日公開予定



◇ルパン Arsène Lupin

原作：モリス・ルブラン 監督：ジャン＝ポール・サロ

メ 出演：ロマン・デュリス、クリスティン・スコット・トマス、パスカル・グレゴリー、エヴァ・グリーン

「ルパン生誕」100周年記念、制作費2500万ユーロの超大作。11月初旬公開予定。